

Joinery 建具



木工技術の高みを目指しミリ単位の世界を競う

建具とは、建物の出入口や部屋の間仕切り、窓、和室のふすまや障子などのこと。主に、建物の外部に使われるものと、内部に使われるものの2種類に分類されます。外部の建具は、建物への出入口を風雨から建物を守り、外観を綺麗に整える役割。一方、内部の建具は、個室の出入口や大部屋の間仕切り、クローゼットの扉や和室のふすまなどで役に立っています。競技では、原寸の図面から手工具や電動工具を用いて加工を施すため、数多くの道具から何をを使うべきか瞬時に判断する能力と、それを使いこなすための高度な技術が必要です。

競技について 競技時間：2日／12時間

会場に用意された素材を用いて、図面に従い課題を作成します。はじめに原寸図を描き、与えられた材料を電動工具でR型棧(曲線の骨組み)を加工。角度の付いたR型棧銅付きを原寸図から写し取って作業を進め、ミリ単位の世界を競います。競技時間は2日間で12時間。昨年同様、今年の課題でも国際大会に向けてR型棧を取り入れたヨーロッパ風のデザインとなっています。



<2023年大会 競技課題>

競技職種と生活との関わり

建具とは、建築物の開口部に設置される、開閉機能のついた仕切りのことです。家屋の壁に取り付けて屋外と屋内を仕切り風雨を遮る玄関のドアや窓、屋内を部分的に仕切り個室を作る障子やふすま、収納スペースを確保するためのクローゼットの折れ戸や台所の収納用の扉など、建具がない住宅はありません。最近ではレトロな木製建具に魅力を見出す人々も増えてきました。新品の建具の製作だけでなく、すでにある建具の修理や調整なども、建具職人の仕事です。

素早く綺麗に正確に！ 高い精度が求められる建具の技能！

建具競技は細かく複雑な加工が多いため、各工程を素早く丁寧に行うことが必要です。作品の仕上がりが寸法精度、胴付き、ねじれ、矩手が評価の対象となります。中棧と中束のRの絡む組手腰加工やルーターを使ったR型棧の加工など難易度が高く技術の見せ所です。また鉋(かんな)による仕上げの美しさにも注目です。

川口 博敬 主査 川口木工所



努力した分、自分が
やった分、必ず結果に
つながってくると思う
ので頑張ってください！

前回大会 金メダリスト！
福留 紫音さん
山口建装(株)

